

FinTech が描く未来

日本銀行決済機構局 FinTech センター 河合祐子

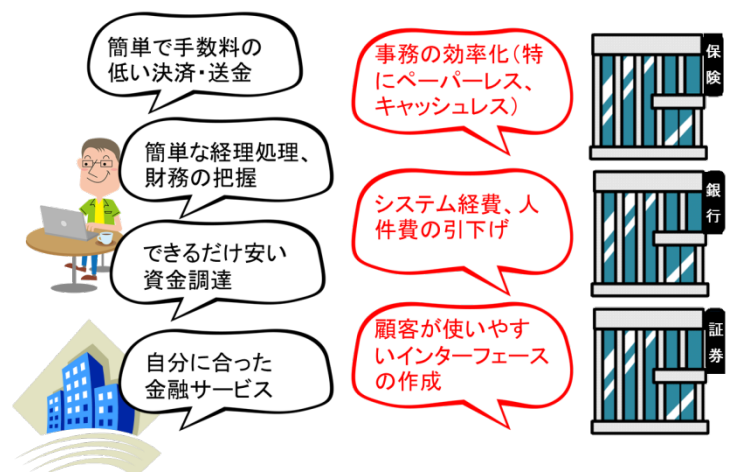
<https://www.boj.or.jp/paym/fintech/index.htm/>

FinTech とは何？

- ・ 情報処理のコストが大きく低下し、インターネットやセンサーなどを經由してデータが蓄積され、個人がコンピューター（スマホ）を持ち歩く時代の金融（もっと便利に！）
- ・ キーワードは、Financial Inclusion（金融包摂）、Financial Democracy（金融の民主主義）、User Experience（顧客満足度：UX）
- ・ 既存金融機関以外の人々が既存サービスを置き換える金融サービスを提供すれば Disruption（破壊）
 - 中国における発展（現金を使用せず、銀行を經由しない決済・取引が増えている）
- ・ FinTech を利用することが目的なのではなく、「課題」があれば Tech を利用する意味がある。では、日本の金融サービスは十分に便利か？
- ・ 金融はデジタル顧客を満足させる水準か？
 - 金融の実店舗は十分合理化されているか？
 - アナログ顧客をデジタル誘導しているか？

FinTech が解決すべき課題

- (1) 顧客本位の金融機関業務効率化
- (2) 金融サービス顧客の満足度向上
 - ① 経理、財務、税務を簡単処理
 - ② お金を借りる
 - ③ 自分に合った保険
 - ④ クレカ決済導入
 - ⑤ 簡単・安価な送金
 - ⑥ 自分に合った資産運用



FinTech のチャレンジ

- ・ 目的、手法（技術）、背景となる哲学に関係者が合意できるか
- ・ 金融機関や中央銀行が長年・多大な経費をかけて作り上げてきた信用（安全性）を代替できるか
- ・ 新しい技術基盤への切り替えコスト（経費、学習）を利用者が負担できるか
- ・ 情報セキュリティ上の新たなリスクに対応できるか
- ・ FinTech の哲学
 - Fin→Tech ではなく Tech→Fin。新技術、データ集積によって、金融サービスを便利・安価に提供しようとする
 - 金融を特別扱いせず、他のサービスと同等に扱う
 - 顧客満足ありきでカスタマイズ。マス・マーケティングを所与としない
 - 素早く・小さくスタートし、実験を積み重ねて改良
 - 中央集権的、閉鎖的ではない
 - 得意分野を狭く深くとり、異業種とも柔軟に連携
 - データ集積・分析が UX を高め、価値を生む
- ・ 切替コスト（金融サービス顧客のデジタル化)
 - [ATM]
 - 暗証番号を忘れる→生体認証（音声、静脈）
 - 操作がわからない→人員配置
 - 機械は無理と決めつける→ATM を体験してもらう
 - [インターネット・バンキング・サービス]
 - シニア層はパソコンをやらない←やらない人でもスマホをやる人はいる
 - シニア層はスマホをやらない←スマホ教室の人気（家族と SNS で繋がる喜び、メールの利便性）
- ・ 情報セキュリティ

FinTech と経済

- Tech によって可能になること
 - 中央集権ではなく分散（個々の情報発信・受領能力が高い）
 - 機能分化とシェアリング（情報が流通するため連携を取りやすい）



まとめ

- 情報処理のコスト低下、データの蓄積、モバイル機器の普及、情報技術の画期的な発展により、新しい金融サービスが可能になる。
- FinTech の発想は、顧客満足度向上の徹底、中抜き・分散化によるコストダウン、小刻みな修正を繰り返す進化、個別に強みを持つ専門家の連携。
- 発展途上の技術も多いが、「課題」が定義されていれば、解決の選択肢は増えている。

以 上